

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	JUALIM DATILES VELA
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
Primary Science Education Using Two Languages, Bicol and Filipino: The Case of Bicol Speaking Students in the Bicol Region, Philippines			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	池田 秀雄 印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	馬場 卓也
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	清水 欽也
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	牧 貴愛
審査委員	National Institute of Science & Mathematics Education Development, Univ. Philippines, Science Specialist IV Dr. Rodolfo S. Treyes		
〔論文審査の要旨〕			
<p>フィリピンの初等理科教育における教授言語の問題を実証的に研究した。論文は5章からなり、第1章序章では、多言語環境にあるフィリピンの初等理科教育における教授言語の問題点に焦点を絞り研究課題、研究目的・研究の有効性や限界等を記述して研究枠組みを立て、第2章では多言語地域における教授言語について先行研究をまとめ、第3章では研究方法を記し、第4章では結果と考察を詳述し、第5章では結論と改善のための提言を記した。</p> <p>フィリピンにおいては、理科の学力向上を目指して初等段階での母語支援が導入されているが、その効果に関しては実証的な研究が少ない。本研究ではビコール地域を選定し理科が始まる第3学年の習熟度別学級の児童に対し、母語(ビコラノ)と国語(フィリピノ)および従来の教授言語(英語)の理解や教育効果の解析、児童や教員への質問紙による児童の言語環境調査を実施した。その結果、動物に関する読解について、高学力児童では言語間で有意な差は見られないが、平均および低学力児童においてはビコラノ次いでフィリピノの点数が英語に対して有意に高かった。また、理科教科書に用いる動詞の理解については、習熟度に限らず、フィリピノ次いでビコラノの点数が英語に対して有意に高かった。さらに、低学力クラスを3グループに分け、それぞれ3言語で理科授業を実施し、授業内容をテストした結果、有意にフィリピノ次いでビコラノの点数がフィリピノに比べて高かった。児童への質問紙調査の結果、児童は家庭(77%)や友人(74%)とは主にビコラノで話し、クラス内ではフィリピノで話し(41%)、理科授業では英語(84%)が使われているが、児童の理科教授言語選好はフィリピノ(41%)、英語(39%)、ビコラノ(20%)であった。教師への質問紙調査では、より深く理解させるためにはフィリピノ(50%)、生徒が答えるためにはフィリピノとビコラノ(50%)などの回答を得た。以上の結果この地域では児童に対するフィリピノによる支援が最も効果が高いことを明らかにした。</p> <p>本研究は、ビコール地域における教授言語の効果を実証した点でオリジナリティーが認められ、その研究内容は博士の学位取得水準を凌駕しているものと判断した。なお本論文の主要な内容は学術論文3編(査読付)として公表済みであることを確認した。以上、審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資質があるものと認められる。</p>			